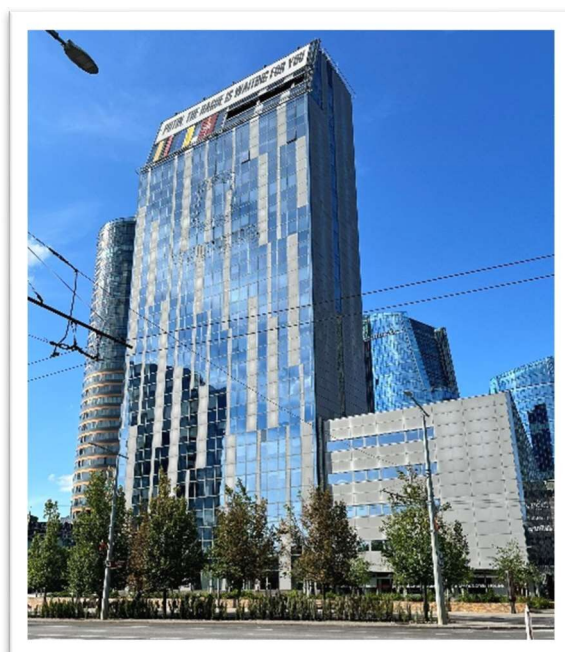




- ・TOYOTA センター TOKVILA での調査後、次の調査先であるヴィリニウス市役所へ向かった。

1 (2) ヴィリニウス市役所【ヴィリニウス市訪問】

- ◆調査日：令和6年7月12日(金)
- ◆対応者：Valdas Benkuskas 氏（ヴィリニウス市長）
Donalda Meizelytė 氏（ヴィリニウス副市長）ほか



《調査目的・概要》

ヴィリニウス市はリトアニア共和国の首都であり、人口約59万人の同国最大の都市である。街の中心の旧市街は、面積が3.6 km²と欧州内でも最大級であり、歴史的・文化的事物が集積されている。1994年にはヴィリニウス旧市街が世界遺産に登録された。

近年、リトアニアの地で「命のビザ」を発給した杉原千畝氏が名古屋市で幼少期を過ごしたことが縁となり、ヴィリニウス市長が本市を訪問するなど、交流が重ねられてきている。本市にある名城大学では2021年にヴィリニウス大学と学術交流協定を締結し、教員・学生の相互訪問が行われているほか、リトアニアのダンスグループが杉原千畝氏のゆかりの地である瑞穂区を訪問し、地域住民との舞踏を通じた相互体験交流会が開催された。

さらに、ヴィリニウス市にあるリトアニア国立博物館と本市の博物館が展覧会の開催に向けて協議を行っているなど、官民ともに様々な分野で人的交流が重ねられており、非常に友好的な関係が築かれつつある。

欧州視察団として、官民による相互交流の絆をさらに強化するとともに、これまで交流を行ってきた関係団体の声を親書としてお届けした。

【参考】リトアニア共和国関係者の名古屋市来訪について

日にち	来訪者	目的
令和3年 10月21日	駐日リトアニア共和国 臨時代理大使	市会議長表敬訪問、平和小学校・瑞穂ヶ丘 中学校・瑞陵高校視察
令和4年 7月19日、 20日	駐日リトアニア共和国 大使館大使	(19日)愛知県知事表敬訪問、瑞穂ヶ丘中 学校・瑞陵高校視察、名城大学での講演会 (20日)市長・市会議長表敬訪問、名城大 学での学生との交流
令和4年 8月18日	駐日リトアニア共和国 大使館大使	名古屋市博物館視察
令和5年 1月25日	駐日リトアニア共和国 大使館大使、文化担当官	博物館視察及び博物館交流に向けた意見 交換
令和5年 1月31日、 2月1日	リトアニア共和国ヴィ リニウス市長、駐日リト アニア共和国大使館大 使	(31日)名城大学・瑞穂ヶ丘中学校・瑞陵 高校・名古屋市博物館視察 (1日)徳川美術館・名古屋城視察、市長・ 市会議長表敬訪問
令和5年 5月8日	リトアニア共和国国立 博物館館長	名古屋市博物館・市政資料館視察
令和5年 7月25日	リトアニア訪日使節団 (リトアニア商工会議 所・地元企業)	リトアニア訪日使節団と中部経済連合 会・名古屋商工会議所との懇談会
令和5年 10月29日	リトアニアダンスグル ープ「ジルビティス」	リトアニアダンスグループと地元市民に よる舞踊交流
令和5年 11月4日	駐日リトアニア共和国 大使館文化担当官	名古屋市博物館でのリトアニア共和国を 紹介するイベント「杉原千畝「命のビザ」 の舞台 リトアニアのゆうべ in NAGOYA について」視察
令和5年 11月14日	駐日リトアニア共和国 大使館大使、文化担当官	リトアニア・ヴィリニウス市 700 周年記 念展「時を超えたまなざし」レセプション
令和6年 2月18日、 19日	リトアニア共和国運輸 通信大臣、駐日リトア ニア共和国大使館大使	(18日)名古屋港管理組合視察 (19日)飛島コンテナ埠頭(株)(TCB)視察
令和6年 3月15日	駐日リトアニア共和国 大使館大使	名古屋市立大学病院・大学キャンパス視 察

はじめに、ヴィリニウス市役所の現地調査を行い、ヴィリニウス市役所職員から説明を聴取した。その概要は、以下のとおりである。

<ヴィリニウス市役所職員>

この場所に市役所が建てられたのは2004年です。2002年に建築計画が始まり、建築されたのが2004年となります。

2002年まで市役所の機能は22か所に散らばっていました。市役所の活動をよりよくするため、意識的に市役所の各部門が全部一つの建物に集まるように計画され、建物が建てられました。

こちらの模型は、ヴィリニウス市の半分を表した模型です。この薄い茶色の四角いブロックとなっているものは、今、実際にある建物の様子です。白いブロックとなっているのが建設中のものや、建築予定となっているものです。



こちらの窓口は、2019年までは市役所だけの窓口となっていました。今は国立電気会社の窓口もあります。1週間に2,500人くらいの方の対応を行っています。実際の窓口での対応人数は、1週間に1,200人くらいです。インターネット上での電子サービスでの対応人数が、1週間に6,000人くらいとなっており、電子メールでの対応人数は、1週間に4,000人くらいとなっています。



外国人のサポートを行う「Go Vilnius」というプロジェクトの一角である、「International House Vilnius」もここにあります。外国人が、車の登録から健康保険のことまで、色々な事をここで片づけることができます。

<議員>

どれぐらいの言語に対応しているのか。

<ヴィリニウス市役所職員>

リトアニア語以外に5か国語、英語、ロシア語、ポーランド語、ウクライナ語、ドイツ語に対応しています。

こちらが建築研究所、建築 labo と呼ばれるところで、例えば、一部の地区で建物を建設する場合は、その地区に何が必要かということについて、建築家が集まって計画を立てます。都市計画の一部です。



ヴィリニウス市役所の現地調査を行った後、Valdas Benkunskas 市長を訪問した。

訪問の際には、ふじた団長から名古屋市長、瑞陵高等学校、瑞穂ヶ丘中学校、汐路学区連絡協議会、中部経済連合会、名古屋商工会議所から承った親書をお渡しした。その後、ヴィリニウス市からは、2025年に欧州グリーン首都に選ばれて様々なイベントが開催されるため、ぜひ名古屋市長にお越しいただきたいという趣旨の、名古屋市長に対する親書を承った。

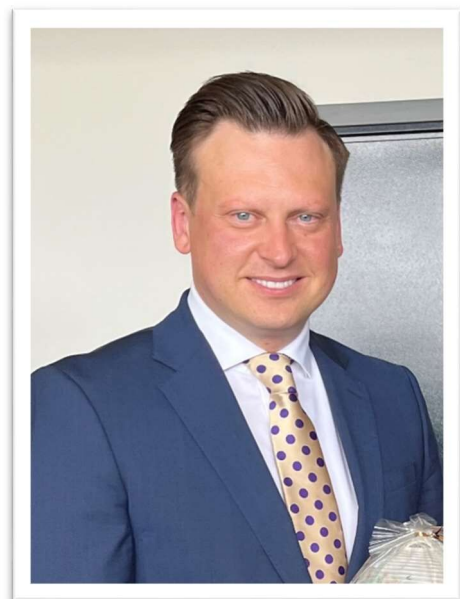
市長の訪問の概要等は、以下のとおりである。

<Valdas Benkunskas 氏>

遠い国からいらっしゃった皆さんを、ここで歓迎できてうれしく思います。リトアニアの首都ヴィリニウス市に来てくださってありがとうございます。

私が市長を務めさせていただいているのは約1年ですが、名古屋市とのつながりについては、以前の市長から受け継いでいます。リトアニアの首都であるヴィリニウス市と、日本最大の都市の一つである名古屋市で交流を続けるということは、とても意義深いことだと思っています。

今まで、例えば博物館の間の交流や、大学間の研究交流など、いくつかの分野で交流が行われているということは存じており、ヴィリニウス市役所も力になれることがあればぜひ関わりたいと思っています。



▲Valdas Benkunskas 氏

最後となりますが、私も日本の車がとても好きです。特にトヨタが大好きです。ありがとうございました。

<ふじた団長>

今日は名古屋市会の3つのパーティーから、それぞれ党を超えて19名参加させていただいております。

私が団長のふじたで、副団長の服部将也、同じく副団長の金庭宜雄、はじめ19名です。

日本とリトアニアの国交樹立100年を記念した年に、オーレリウス・ジーカス大使に出会いました。ジーカス大使と出会ってからは、まだ2年くらいですが、ヴィリニウスと名古屋の交流については、本当に何十年続いているかのような交流をさせてもらっています。

今まで、中部経済連合会、名古屋商工会議所、名古屋市博物館、名古屋市立大学と名城大学などと、多くの団体が交流を行っており、様々な活動を行っていただきましたが、中でも昨年の秋、フォークダンスのアンサンブルチーム、ジルヴィティスの皆さんに名古屋にお越しいただいた際には、地元の住民の皆さん方も大変喜んでいました。

杉原千畝のメモリアル広場を瑞陵高校と瑞穂ヶ丘中学校に作っていますが、今日はその校長さんたちからの親書もお預かりしております。

また、博物館の交流では、何度もお互いに行き来をしてもらっています。2026年に名古屋市博物館がリニューアルオープンしますので、その時には、リニューアル後の第1回目の展示として杉原千畝とリトアニア展を計画しています。

昨年2月には前ヴィリニウス市長さんにもお越しいただきましたが、2026年に私たちの博物館がリニューアルオープンした際には、ぜひ今の市長さんに



名古屋にお越しいただいて、瑞陵高校や博物館を訪問していただきたいと思います。

今日はそのお誘いに、はるばる北極の上を通過してヴィリニウスに来ました。

今ご紹介した名古屋の団体の親書をお預かりしているので、市長さんにお渡ししたいと思います。全部で6団体です。



<Valdas Benkunskas 氏>

こちらからも、名古屋市長宛ての親書をお渡ししたいと思います。

敬意を表して、そしてこれからの友情への希望が記されている親書となります。先ほど2026年にお越しいただければとお誘いいただきましたが、その前に、2025年に市長さんにリトアニアにお越しいただいて、協定を結びたいと思いますというように書かれています。市長によろしくお渡しください。

2025年に市長さんにお越しいただきたいということについてですが、ヴィリニウス市が2025年に欧州グ



リーン首都となるので、国際的なイベントが盛んに行われます。ぜひ、そのイベントに名古屋市もご参加いただけたらとても光栄に思います。

ヴィリニウス市役所として、在リトアニア日本国大使館との交流も盛んに行っています。日本の文化に関するイベントを市役所の近くで開催したり、リトアニアの人々に、日本の文化を愛し、楽しんでもらえるスペースとして、昨年、日本庭園をオープンしました。日本庭園は、日本の専門家をお願いし、日本の伝統に従って作られており、リトアニアの人々も楽しんでいます。

また、杉原千畝氏は、リトアニア人の誰にでも知られている名前であり、偉大

な人物としてとても尊敬されています。日本の雰囲気は少し味わる場所として桜公園もあります。

日本とリトアニアは遠い国ですが、このように、日本を少し身近に感じられるスペースがいくつかあり、市役所も関わっていることをうれしく思います。

＜オーレリウス・ジーカス氏＞

2年前に、初めて名古屋市会とお会いした時のことをよく覚えています。団長がおっしゃったとおり、2年間で、何十年続いているかのような交流が行われています。

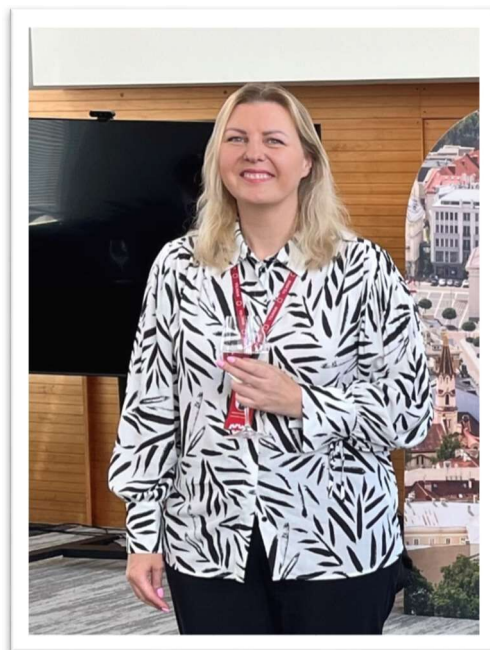
杉原千畝氏がこの二つのまちの架け橋と考えられます。名古屋市で杉原氏が育った、そして教育を受けた。共通する歴史の一部があるということに限らずに、将来に向けて二つのまちが協力しあって、両国の将来を考えながら交流できればよいと思います。大学間の交流と博物館の交流が、とても良い土台となっています。経済関係、企業間の交流も、もっと盛んになれば良いと思います。日本最大都市の一つである名古屋市は、自動車メーカーなどがあり、経済的にとても強いまちなので、これからヴィリニウス市との経済的な交流を行う中で、発展する余地があるのではないかと思います。

この2年間の交流は、皆様の協力なしではあり得なかったため、名古屋市会の皆様に感謝の気持ちを表したいと思います。そして、市長にもお礼の言葉を申し上げます。



市長の訪問の後、ヴィリニウス市主催の昼食会が開かれ、Donalda Meizelytė 副市長らと懇談を行った。

昼食会においても欧州グリーン首都に関する議論が交わされ、改めてヴィリニウス市からは、2025年の1月に開会式、5月にカンファレンスが開かれ、10月に閉会となるので、ぜひ名古屋市にも参加していただければとの提案がなされた。



▲Donalda Meizelytė 氏



《所感・考察》

名古屋市会としては初となる、リトアニア共和国、ヴィリニウス市役所の訪問。

ヴィリニウス市は人口約59万人を抱え、リトアニア共和国の首都として世界の各都市と姉妹都市を結んでいる都市である。ヴィリニウス国際空港から市内の中心地までバスで20分程とアクセスも良く、様々な様式の歴史的建造物が残された旧市街地は1994年世界遺産に登録され、経済と歴史・文化の融合した街並みに大きな魅力を感じた。

これまでも、本市とリトアニアとの交流は継続して行われており、2023年1

月31日から2月1日にかけて、レミギユス・シマシュス前ヴィリニウス市長がオーレリウス・ジーカス駐日大使とともに初めて本市を訪れ、市内にある杉原千畝氏の顕彰施設や名古屋市博物館などを視察され、名古屋市役所にて両市の交流について意見交換が行われている。

ヴィリニウス市役所の訪問では、Valdas Benkunskas 市長と、2022年に日本とリトアニアが「友好100周年」となったこと、名古屋市との2年あまりの交流がまるで数十年も続いているかのような密な交流であるように感じられること、今後も杉原千畝氏が懸け橋となり交流を続けていくことは意味があることであるなどの意見交換がなされた。その後、名古屋市長、愛知県立瑞陵高等学校、名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校、汐路学区連絡協議会、一般社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所からの親書をValdas Benkunskas 市長へお渡しした。

一方、意見交換の中でValdas Benkunskas 市長より、リトアニア共和国の首都ヴィリニウス市が欧州グリーン首都に選出され、2025年に大きなイベントがあるため、ぜひ名古屋市も参加してほしいとのお話をいただき、名古屋市長への親書を承った。

本市も1999年にごみ非常事態宣言を行い、市民・事業者・行政協働のもとで資源収集を始め、ごみ処理量20万トン削減という減量を訴え、達成。また、都市の中に残された貴重な自然である藤前干潟における、ごみ埋立処分場の建設計画を断念し、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されている。

自然豊かでグリーンエネルギーに力を入れ、歴史・伝統・文化の息づくまち、ヴィリニウス市とさらなる交流を続けていきたいと感じられた。

そして、杉原千畝氏の想いと歴史的背景を考え、自由と人権を重んじるリトアニア・ヴィリニウス市との交流が、現在の名古屋市にとって、今必要なことであると強く感じられた。





- ・ ヴィリニウス市役所での調査後、次の調査先であるリトアニア国立博物館へ向かった。

1 (3) リトアニア国立博物館【博物館施策調査】

- ◆ 調査日：令和6年7月12日(金)
- ◆ 対応者：Simona Stalilionyte 氏（古代歴史展示部門責任者）ほか



《調査目的・概要》

複数の歴史的建造物からなるリトアニア国立博物館は、石器時代から現代に至るまでのリトアニア文化をテーマとしており、リトアニアの文化遺産である膨大なコレクションを所蔵している。館内では、有史以前の資料、20世紀の国家回復に関する資料、歴史上重要な人物に関する資料等が展示されている。

令和8年のセミオープンに向けてリニューアル改修中の名古屋市博物館は、セミオープンの際にリトアニアの歴史と文化を紹介する展覧会を開催することを検討しており、リトアニア国立博物館と協議を重ねている。

欧州視察団として、リトアニア国立博物館の現地の調査や関係者との意見交換を行うことで、本市における今後の博物館施策の参考とするとともに、本市の博物館との相互交流の絆をさらに強化することを目的に、名古屋市博物館から承った親書をお届けした。

【参考】名古屋市博物館とリトアニア国立博物館との交流について

(1) 名古屋市博物館の概要

- ・歴史系総合博物館として昭和52年10月に開館し、考古・美術・歴史・民俗に関する資料の収集、保管、国内外の歴史・文化を紹介する特別展を開催。
- ・現在はリニューアル改修に伴う休館中で、令和9年秋に本館1階特別展示室と前庭、令和9年に常設展とイベントホール、令和11年にギャラリーやキッズスペースなどが入る東館を順次オープン予定。

(2) 主な交流の経緯

時期	内容
令和5年 1月31日	○シマシュス市長・ジーカス大使、名古屋市博物館へ来館 ・名古屋市ーヴィリニュス市と交流や、当館での展覧会開催に向けた意見交換
令和5年 5月8日	○ルータ国立博物館長・ガビヤ文化担当官、名古屋市博物館へ来館 ・名古屋市博物館のリニューアル改修後（令和8年秋）の展覧会開催を見据えて意見交換
令和5年 10月17～20日	○リトアニア訪問（名古屋市博物館副館長・学芸員） ・ルータ館長と展覧会テーマについて意見交換
令和5年 11月4日	○リトアニアの夕べ in NAGOYA を開催 ・地域・名市大・名城大との協働で、リトアニアの文化を紹介するイベントを名古屋市博物館にて開催
令和5年 11月14～30日	○リトアニア写真展を開催 ・駐日リトアニア共和国大使館主催で、ヴィリニュス市制700周年を記念した写真展を市政資料館にて開催（協力：名古屋市博物館・市政資料館）

はじめに、リトアニア国立博物館における古代歴史展示部門の責任者である Simona Stalilionyte 氏より、歓迎のご挨拶をいただいた後、リトアニア国立博物館について現地調査を行った。その概要は、以下のとおりである。

視察先の概要

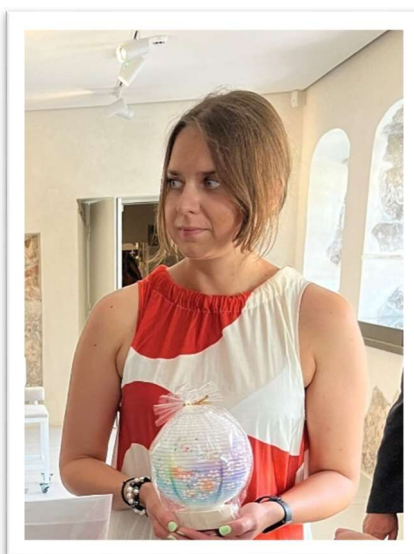
今回の視察団の現地調査では、リトアニア国立博物館の施設のうち、カステランの家 (Castellan's House) 及びゲディミナス塔 (Gediminas' Tower) を訪問し、調査を行った。

カステランの家は、中世において、リトアニア大公国の城主が居住し、行政や軍事の中心地として機能していた場所である。リトアニア国立博物館の最新の展示ユニットであり、リトアニアの歴史、文化、国の発展に貢献した人々を紹介している。

ゲディミナス塔は丘の上に建ち、塔の登り口の右手には「バルトの道」の起点を示すプレートが残っている。

「バルトの道」とは、1989年にバルト三国 (リトアニア、エストニア、ラトビア) を結ぶ 600km を 200 万人が手を繋いだ人間の鎖であり、ソビエト連邦の不法占拠に対する平和的な抗議活動である。

なお、ゲディミナスの丘は、ヴィリニウスの旧市街が一望できる絶景ポイントとなっている。



▲Simona Stalilionyte 氏



▲Castellan's House



▲「バルトの道」のプレート

◀Gediminas' Tower

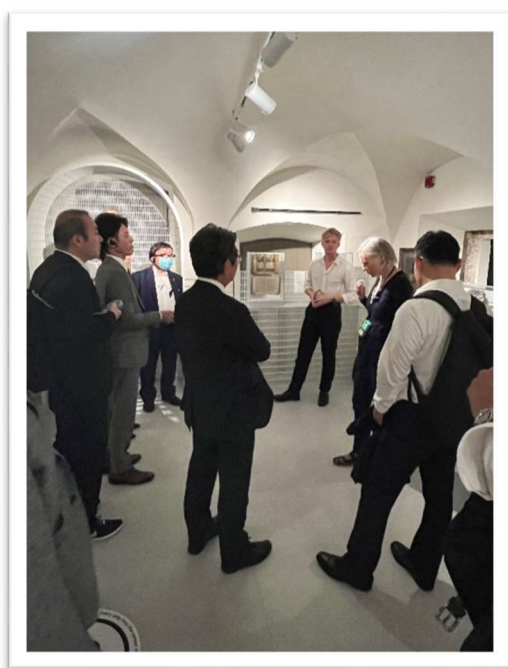
展示内容 (カステランの家)

カステランの家は、地上3階の建物となっており、各階ごとにテーマを分けてリトアニアを紹介している。

1階は、中世から近世にかけてリトアニア人がいつ・何をつくってきたのか、また、リトアニアではどのような宗教が存在していたのかについて伝える展示が設置されている。

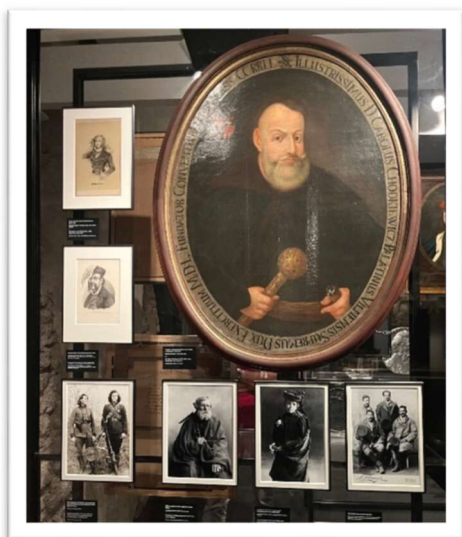


2階は、リトアニアの独立までの戦争をテーマにした展示や、リトアニアにおける各時代における大きな出来事について、レンチキュラー技術を用いたパネルで紹介している。



3階はリトアニアに関する歴史上の重要な人物が紹介されている。

どのテーマも、リトアニアのアイデンティティを形作った出来事について理解を深めてもらうための展示方法の工夫がなされており、見学者一人ひとりがリトアニアの歴史やリトアニアに深くかかわった人物を発見できるように意識して展示がされていた。

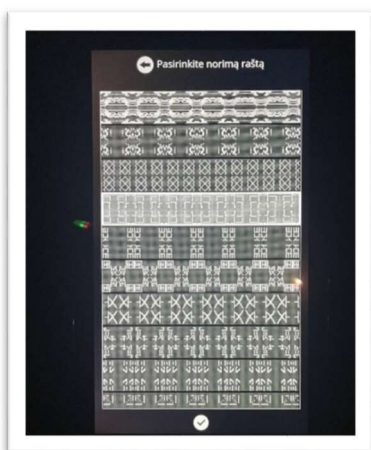


施設の特徴

カステランの家は、建物自体も歴史的な価値を持つ重要な遺産であり、中世の要塞としての特徴を残しつつ、建物の内部は近代的な改修が行われている。

外観はルネサンスとバロックの要素が融合したデザインである。一方、内部は現代的な博物館として整備されているものの、当時の内壁も残されており、中世の雰囲気を感じることができる博物館となっている。

また、最新の技術を駆使したインタラクティブな展示もあり、見学者が参加型で歴史を学べる工夫がされている。



利便性

カステランの家は、見学者のための設備やサービスも充実している。

・オーディオガイド

各部屋においてオーディオガイドが設置されており、5か国語に対応している。見学者が展示物や展示内容についての詳細な情報を、希望する言語で解説を聞くことができるようになっている。

・QRコード

各展示物の近くにQRコードが設置してあり、見学者がスマートフォンで読み取ることで、展示物に関する詳細な情報、背景などの、より多くの情報を提供できるようになっている。

・点字

触れることができる展示物を用意し、点字での説明を添えることで、視覚障害者が展示物を触って感じることができるようになっている。

また、視覚障害者を含む、すべての見学者に対して包括的でアクセスしやすい環境を提供している。



リトアニア国立博物館での現地調査を終えた後、ふじた団長から今回の視察の受け入れに関する御礼のあいさつを行い、名古屋市博物館から承った親書をお渡しした。



《所感・考察》

リトアニア国立博物館のカステランの家は、リトアニアの豊かな歴史と文化を深く学ぶことができる重要な施設である。多様な展示と充実した施設により、見学者は楽しく学びながら歴史に触れることができ、今後も多くの人々に訪れていただき、リトアニアの文化遺産を共有していくことが期待される。

また、名古屋市博物館は開館後40年以上経過しており、リニューアル改修が進められる中、開館当初の理念を踏まえつつ、時代の変化に即した博物館に生まれ変わり、市民や来訪者の学習の意欲・関心を高めるとともに、より一層親しまれる博物館を目指していく必要があると思われる。

そのためにも、両博物館が互いのノウハウやリソースを共有し合うネットワークを形成することで、より効率的かつ効果的に新たな課題に対応することができる環境をつくっていくことができ、博物館の価値を高めるための好循環が形成されると考える。



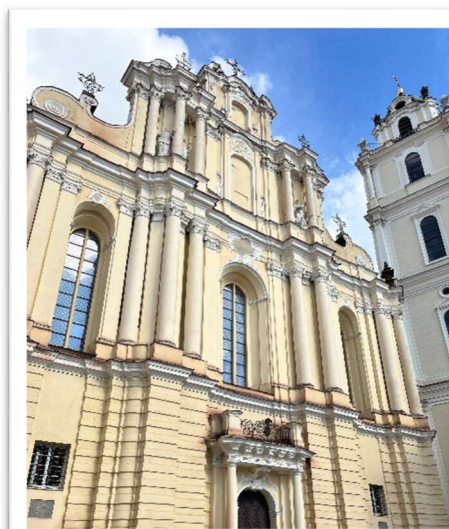


・リトアニア国立博物館での調査後、次の調査先であるヴィリニウス大学へ向かった。

1 (4) ヴィリニウス大学【大学施策調査】

◆調査日：令和6年7月12日(金)

◆対応者：Artūras Vasiliauskas 氏（パートナーシップ担当副学長）ほか



《調査目的・概要》

ヴィリニウス大学は1579年に設立されたリトアニアで最も古い大学であり、リトアニア国内で最も多い学生数を誇っている。また、日本との協力校は名城大学を初め、30大学に上っている。

これまで、バルト三国の大学との交流機会のなかった名古屋市立大学がヴィリニウス大学との友好関係を築き、両大学に通う学生における交換留学や学術交流・国際共同研究に向けた取り組みを推進するために調査を行うとともに、今後、より活発な交流事業を行っていくことを目的に、名古屋市立大学及び名城大学から承った親書をお届けした。

【参考】ヴィリニウス大学について**(1) 概要**

- ・1579年に設立されたリトアニアで最も古い大学。
- ・リトアニア共和国の首都ヴィリニウス市に本部が置かれている。
- ・1990年にリトアニア共和国がソビエト連邦からの独立を宣言後、リトアニア共和国の国立大学となっている。

(2) 規模

学生数 23,517 名 / 教員 2,511 名 / 研究者 837 名
(2022 年 10 月 1 日現在)

(3) 学部と研究所

15 機関（ビジネススクール、地球化学部、コミュニケーション学部、経済経営学部、歴史学部、法学部、数理情報科学部、医学部、文献学部、哲学部、物理学部、国際関係政治科学研究院、カウナス学部、ライフサイエンスセンター、シャウレイアカデミー）

(4) 日本の協定校

30 大学（北海道大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、筑波大学、東北大学、上智大学、東京理科大学、早稲田大学、明治大学、名城大学、東京都立大学 等）

【参考】名古屋市立大学について**(1) 国際化に向けた取り組み**

58 の大学間交流協定、22 の学部間等交流協定を結び、名古屋市立大学で学ぶ学生向けに協定校を中心とした海外の大学に派遣する交換留学プログラム、短期研修・実習プログラム等を実施している。留学生の受入れについては、留学生生活が充実したものになるよう留学生宿舍の運営、奨学金制度の運用、地域との交流事業、日本語講座等を実施している。また学術交流・国際共同研究を推進している。

(2) リトアニアとの関係

時期	事項
令和 5 年 11 月 4 日	「杉原千畝「命のビザ」の舞台 リトアニアのゆうべ」(名古屋市博物館) に名古屋市立大学の留学生が参加し、地域住民と交流
令和 6 年 3 月 15 日	オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使が名古屋市立大学病院を訪問し、ロボット手術システムのデモンストレーションを体験

はじめに、ヴィリニウス大学のパートナーシップ担当副学長である Artūras Vasiliauskas 氏より、ヴィリニウス大学の概要を伺い、名古屋市立大学及び名城大学から承った親書をお渡しした。

その後、ヴィリニウス大学について現地調査を行った。その概要は、以下のとおりである。

<Artūras Vasiliauskas 氏>

こんにちは。ヴィリニウス大学によろしくお会いくださいました。自分は Artūras Vasiliauskas と申します。副学長で担当分野は国際関係です。

名古屋市役所からのご一行をここで迎えたいことをとてもうれしく思っています。初めてではないでしょうか。

ヴィリニウス大学について一言述べさせていただきます。

リトアニアの中で一番古くて一番大きい大学となっています。1579年に設立された大学です。そろそろ450年を迎える年となります。

一番大きいというと、学生の数でも一番大きいと言えます。2万3千人ぐらいの学生数の大学となります。

可能な限り力を注いでいるのは、国際的な大学にするために外国の学生をできるだけ受け入れる体制を整えているところです。外国からの留学生の中には日本からの留学生もあり、うれしく思っています。数がまだ少ないのですが、ほとんどみんな、交換留学としてこちらにいらっしゃいます。

日本語に一番関係のあるスペースに集まっていただきました。日本語教室です。

リトアニアでは日本への、国としての日本や日本文化への関心がとても高く、独立時代から関心が高まってきましたので、その結果として日本学というプログラムもできました。アジア研究センターの所長となっている人もこちらにいらっしゃっています。



▲Artūras Vasiliauskas 氏



日本学に入学する人の数は毎年25人です。もう一人ヴィリニウス大学と一緒に働いている人を紹介します。歴史学部の学部長のロレッタさんです。ロレッタさんに今日来ていただいた理由は、名古屋に直接関係があるからです。名城大学に留学していました。名古屋とのつながりがすでにある大学なので、それを誇りに思っています。これからもますます発展させたいと思っています。



<ふじた団長>

今日はありがとうございます。たくさんの議員団でお邪魔しましたけれども、今日は大統領就任式がすぐ近くで行われていて大変な時だと思いましたが、快く受け入れていただいてありがとうございます。

実は私、名城大学の出身です。今日のメンバーの中では、岩本たかひろ議員も名城大学の出身となります。



今日は名城大学の稲葉教授から、名城大学の小原学長からの親書をお預かりしております。そして名古屋市立大学の郡理事長からも同じく親書をお預かりしています。

今日も午前中にヴィリニウス市長さんのところに訪問してきましたけれども、今、名古屋とヴィリニウス市は、博物館の交流をすでに始めております。

2026年に我々の博物館がリニューアルオープンするので、その時に千畝（センポ）とリトアニア展を開催しようということで、すでに準備を始めております。

その後、名古屋とヴィリニウスの交流をさらに深めていきたいと思っておりますので、ぜひ、名城大学、そして名古屋市立大学と御学との交流もこの機会に深めさせてもらえればと思います。

日本からの留学生はもちろんのこと、できましたらヴィリニウスから名古屋の大学に多くの留学生を派遣していただき、お互いの学術交流が盛んになるように願っております。今日は、我々がその橋渡し役で親書をお届けに上がりました。

ヴィリニウスの市長さんから、ぜひ来年、名古屋の市長にヴィリニウスに来てほしいというお手紙を預かりましたから、近いうちにまた、我々の大学関係者との交流の場を我々もつってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



主な質疑

<ふじた団長>

日本について、どういう研究をされているんですか。

<Artūras Vasiliauskas 氏>

ここは私が長年教えた教室ですし、趣味で数回授業に出たこともあります。

様々な分野の研究が行われているアジア研究センターですが、特にトランスカルチャー、いくつかの文化がどう影響しあっ

ているのか、その中にはいくつかの文化の比較研究もあります。よって、日本学の先生が割と幅広い研究をしているんですけど、文学の中で、古典文学をはじめ、日本語の語学研究や社会問題などの研究、例えば高齢化社会などの研究もこちらで行われます。

少し補足をすると、20世紀の初めに活躍した、リトアニア人のとても有名な画家のチュルリョーニスが、北斎風の描き方を描いていたことがあって、有名な波を取り入れている絵画もあります。



Artūras Vasiliauskas 氏との懇談の後、ヴィリニウス大学の現地視察を行った。

大学構内の施設案内

<死んでいる言葉の墓>

バルト民族は、今残っている民族は2つあるんですが、中世から中世の前にはもっと民族がいっぱいいました。

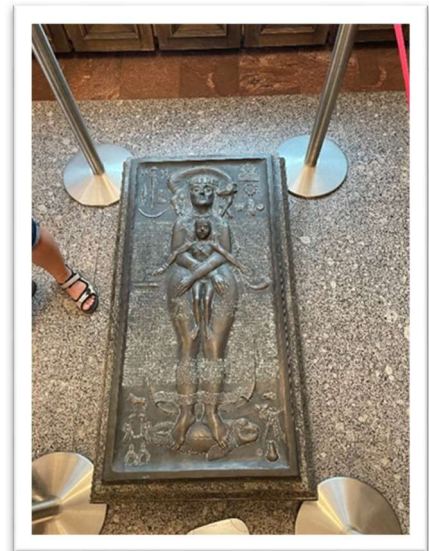
これは、死んでいる言葉の墓と呼ばれる記念碑です。民族がなくなれば言葉もなくなるわけですね。死んでいる民族、死んでいる言葉の墓という記念碑です。本当に遺体が入っているわけではないのですが、学生は敬意を表したいということで、お花も添えてあります。

死んだ言葉のお墓。バルト民族というのが、今、リトアニア人とラトビア人しかいません

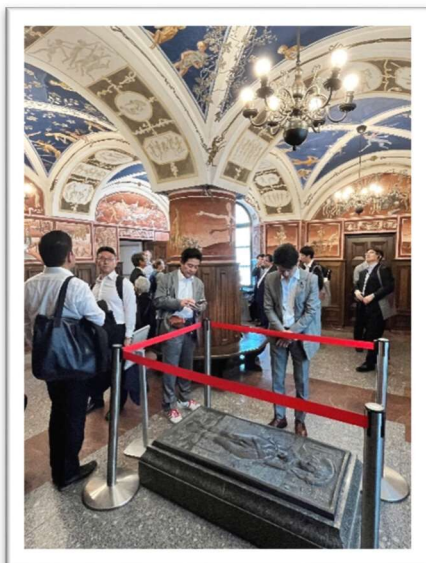
けれども、12世紀、その前の時代はもっと多様な言葉があって、しかも地方という扱いではなく、独立した言葉として存在していたわけです。

その民族が絶滅するのと同時に、言葉もなくなるわけですね。けれど、研究の結果、これぐらい言葉がたくさんあったと言われています。

丸く囲まれているのが言葉で、間に書かれているのが方言だったりするんですけど、どれくらいバルト民族の言葉があったかわかるんですね。今、2つしか残っていません。



▲死んでいる言葉の墓



<フレスコ画>

ここにあるフレスコが、2つの意味でとても特別です。

第一にソ連時代、1970年代に作られたものでバルト民族、ロシア語以外の言葉が印字されていること。バルト民族をなくしたい。全部ロシア人にしたいという時代に、バルト民族の日常生活を表すフレスコを描くことを許可したとのこと。



そしてソ連時代にあり得ないくらいの裸の体をフレスコで描写するということが、あり得ないことだったので、この2つの意味で特別なフレスコです。

バルト民族の1年の日常生活なので、遊びもありますし、日常生活的な作業も、農業が一般的だったのですけれども、そういうものを表しているものです。

<中庭>

バイデン大統領が昨年のNATOサミットでお見えになった時に、このヴィリニウス大学の中庭でスピーチをされました。



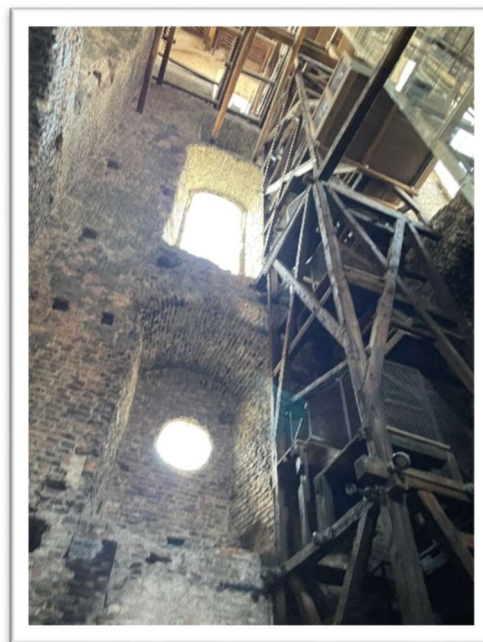
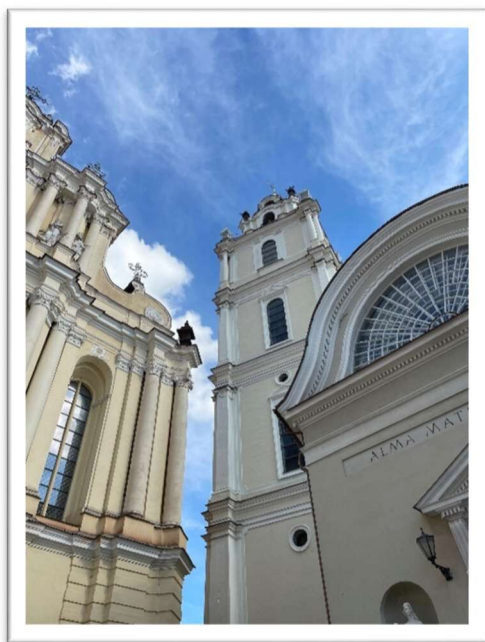
<聖ヨハネ教会の鐘楼>

1579年設立の中央および東ヨーロッパで最も古く、旧市街地に位置するヴィリニウス大学には、リトアニアおよびポーランド共和国で最も古い天文台

(聖ヨハネ教会の鐘楼)があり、市街地で一番高い塔となっている。

歴史的建造物にも関わらず、塔には近代的なエレベーターが設置され一般観光客や高齢者、障害者も展望階まで利用できる。

大学内の建造物を案内いただいたが、建屋にはフレスコで装飾された部屋や絵画など歴史的に大変貴重なものがいたるところで見受けられた。



《所感・考察》

ヴィリニウス大学には、従前から学生交流を行っている名城大学とともに、名古屋市立大学からも学術交流を視野に入れた親書を Artūras Vasiliauskas 副学長に手渡しして、意見交換を取り交わした。

リトアニアでは日本の文化・歴史などに対して極めて関心が高く、すでにヴィリニウス大学においては「日本語教室」が設置されており様々な研究が進んでいる様子が窺えた。また、幸いにも名城大学との取り組みからも名古屋市との関係をさらに深めていきたい意向が確認できた。

ヴィリニウス大学では、国際化に向けて留学生を積極的に受け入れており、現在 30 大学の日本協力校が存在する中、このたびの訪問が、名古屋市立大学とヴィリニウス大学両校の協定締結等を進展する手がかりを掴んだと思われる。

なお、昨年度には、名古屋市博物館にて、「杉原千畝「命のビザ」の舞台 リトアニアのゆうべ」に名古屋市立大学の留学生が参加して地域との交流を行い、また、オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使には、名古屋市立大学附属病院を訪問いただき、ロボット手術システムのデモンストレーションを体験いただくなど、両市とも盛んに交流を図ってきた。

名古屋市立大学で学ぶ学生向けの交換留学プログラムや短期研修・実習プログラム、さらには、相互に学術交流・国際共同研究が活発に実施できるよう、大学間交流・学部間等交流協定の締結への第一歩を踏み出したものと認識している。

今後、具体的な実現に向けて、さらに慎重かつ積極的に対応すべきものと考え



・ヴィリニウス大学での調査を終え、この日の調査は終了した。